

第87号

平成27年2月17日

高二 平田奨
高二 轟 悠
高二 原将仁

読書三昧

甲南中学・高校
図書館
図書委員会
芦屋市山手町
31番3号

大好評！文化祭プラネタリウム ～星と神話の世界～



今回の文化祭を通して、これまで参加する側だけだったので、実際に行事などを手伝えることができ

て、いい経験になりました。プラネタリウムの完成度が思っていたよりも高かったので、来年も図書

今年の文化祭で僕たち図書委員はプラネタリウムの展示を行いました。このプラネタリウムは、昨年の読書月間に行い大好評だった物に改良を加えたもので、さらに多くの来場者の方々に楽しんでいただくことが出来ました。今年はこちらに、人文科学部の皆様とコラボ企画を実施し、星座や、それに関する神話の説明などをしました。プラネタリウムを一度に体験できる人数に限りがあったので、今回は整理券方式での対応としました。それでも、非常に多くの来場者の方々にお越しいただき、おかげさまでほぼ全ての回で満員となりました。製作・展示に関わった図書委員会のメンバーからの感想のコメントを一部紹介します。

委員会が行うイベントに参加してみたいと思えました。(中一 若宮拓也)

僕は教室の外で宣伝を行いました。小さな子供たちからご年配の方々まで、整理券を喜んで受け取っていただけとても嬉しかったです。来年以降のイベントも参加してみたいです。(中二 中川多聞)

幅広い層のお客様にお越しいただき、とてもうれしかったです。来年のイベントも、多くのお客様にお越しただければなあと思います。(高二 平田奨)

展示を終え、反省点や、これからの展示のために何ができるのか、といった話も出てきました。来年以降も多くの方に楽しんで頂けるイベントを開催できたらいいなと思っています。

また、展示場所を提供してくださった高三ーAの皆様、必要な用具などの準備をしてくださった図書館の皆様、組み立てに際しアドバイスを頂戴した山岡先生をはじめとする多くの先生方、そしてコラボ企画にご協力頂いた人文科学部の皆様、本当にありがとうございました。



準備の様子

目次

- 1 文化祭プラネタリウム
- 2 灘甲戦読書会
- 3 社会科 川端先生より
- 4 図書委員店頭選書

・編集後記

灘校との親善定期戦 六月十五日(日)

灘甲戦読書会

今年も甲南では体育館・グラウンドの改良工事を行っていたため、灘校にて開催された灘甲戦。多くの運動部員の方たちが白熱した試合を繰り広げていた裏で、私たち図書委員会も白熱した議論を行いました。

灘校の図書館は、畳の間、天窓、小さなスペースをも無駄にはしない書架の配置など、独特の設備があり、とても読書しやすい空間になっていました。

さて、そんな図書館で行われた読書会。今年も映画化などで話題を呼んだ百田尚樹氏の『永遠の0』という本をお題に、それぞれの意見や思ったことなどを語り合いました。



僕は、高校から甲南に入学したので、最初はかなり緊張しました。しかし、委員長や他の図書委員に支えていただき、灘の図書委員の方々と渡り合うことが出来ました。

『永遠の0』という名前を聞いたことのある人は多いと思います。映画化された時、この映画を見に行き、某議員さんほどではないですが、号泣してしまいました。そんな作品をお題にした今年の読書会でしたが、当初灘からはもつと難しいテーマを要求されてきました。しかし私たちには難しすぎるということ、なんとかこのお題となりました。

灘の方々より「著者の百田尚樹氏の問題発言の連発」や「戦後に生まれた人間の著作である」といった点から批判的な意見が飛び出しました。しかし議論を進めていくにつれ、他にも意見が出て

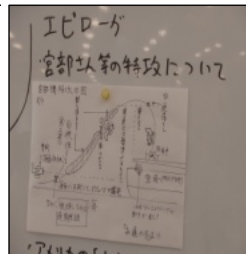
かなり白熱したものになりました。最終的には、双方意見を出し尽くし、満足した結果となりました。昨年、集団的自衛権に関する法律が改定されたことよって、いつ「第三次世界大戦」が勃発してもおかしくない状況下には日本は置かれています。そんな中、過去にあったことを知るために、この本が読書会のテーマに選ばれたことには、大きな意味があったと思っています。

この読書会で「現在のことを知るためには過去を知らなければならぬ」ということを教わりました。長くなりましたが、最後に感想をまとめさせていただきます。先述のとおり、白熱して楽しい読書会になったと思います。双方の感性、表現に感動しました。また、疑問が出るたびに解決し、また新たな疑問が生まれ解決するという繰り返しの中で、常に疑問の答えを探索し続けることが、この読書会の目的なのではないかと思いました。また来年も参加したいと思っています。(文・高一 吉岡篤司)



僕たち甲南中高図書委員は灘中高図書委員会の方々と、百田尚樹さんのロングセラー小説『永遠の0』について意見交換をしました。今回は話題になった小説ということもあり、過去に類をみない大人数での読書会となりました。今までの読書会と違い、話し合いが途切れることもほとんどなく、発言者ものびのびと話すことが出来ていたように思いました。また、空母に詳しい人がいたので「物語

に登場するシーンは果たして再現可能か否か」についての検証も行われたので、その面でもとても有意義なものになったと思います。また、恥ずかしながら僕にとつて最後の読書会で初めてまともに灘校生と話せたような気がしています。優秀な後輩もいるので、今後を楽しみにしています。(文・高二 武仲雄輝)

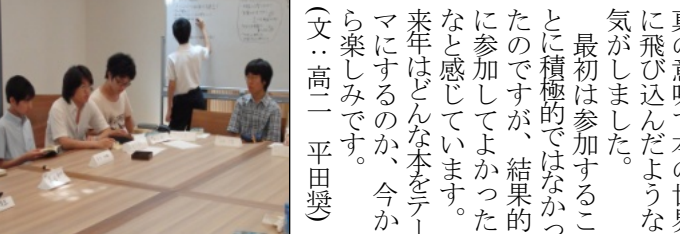


私にとつて初めての読書会だった今回私は緊張してうまく話せるかどうか非常に不安でしたが、いざ始まってみると非常にゆつたりとした雰囲気だったのでとても話しやすく、楽しい読書会になりました。また、書記の役割をきちんとこなすことが出来るの

かも不安でしたが、双方から多くの発言が飛び交っていたので、書き留めるのに必死でした。しかし、今考えるところでよかったのかなと思えます。

この読書会を通して、新しい本の楽しみ方を教わったような気がします。特に、作中のシーンを図に書き起こして検証するなんてことはしたことがなかったので、真の意味で本の世界に飛び込んだような気がしました。

最初は参加することには積極的ではなかったのですが、結果的に参加してよかったなと感じています。来年はどんな本をテーマにするのか、今から楽しみです。(文・高二 平田奨)



精神的食事としての読書

社会科 川端正人 先生

「最近、ブームとまではいかな

いものの、一種の「ブックガイド」的なものの数が増えているようだ。とはいえ、私は、読書を精神的食事であると考えている。よってブックガイドにたよった読書も、自分の食事を常にミシランガイドや食べログの評価を参考に決めるようなもので、これはこれで実りのある読書とは言いがたいのではないだろうか。

「名作」という言葉があるが、こればかり読む読書も、間違いはないといえるものの「健康」や「栄養」をうたった食事が必ずしも美味でないのと同じように、やはり味気ないという思いもぬぐいがたい。私はい年をして、たまにジャンクフードや清涼飲料水といったものを無性に摂りたくなる時があるのだが、これと同じように「身体に悪い」読書というものもあってしかるべきだと、個人的には思う。

さて、いきなりブックガイドを否定しつつ、おまえも本の紹介をするのか、ということになるが、今回は安くて旨い定食屋のような「お得な読書」として、優れたエンターテインメント性を持ちつつ、知識も身に

授業で扱うとき、日本になじみのない地域は、興味やイメージを持ってもらうことが非常に難しい。そんな地域の代表が東欧だった。そういった事情と個人的趣味から、東欧の社会と近現代史を舞台としていること、こののを条件としつつセレクトしてみた。

まず、米沢徳信『さよなら妖精』（創元推理文庫。二〇一四年の『満願』がミステリー関連の賞を総なめにし、乗りに乗っている感がある。とはいえ、処女作の『氷菓』以来の「日常系ミステリー」に著者の真価はあり、その代表作として本書を推したい。旧ユーゴスラヴィア内戦を下敷きにしつつ、読後に何とも言えないもの悲しさどほろ苦さが残る、青春小説の傑作でもある。

次の一作は、春江一也『プラハの春』（集英社文庫。一九六八年のチェコスロヴァキア現代史上最大の事件を、著者の外交官としての実体験を活かしつつ、悲恋物語としてまとめている。主人公をとりまく魅力的な脇役たちと、彼らを飲み込む圧倒的な歴史の奔流を感じ取れる作品だ。

あえてコミックも薦めてみたい。最近では『二十世紀少年』で知られる浦沢直樹がかつて手がけた、『パイナップルARMY』の小学館文庫版第2巻に収録されている「泣く男」も『プラハの春』を舞台とした作品である。決して今風の絵ではないが、それがかえって物語に余韻を与えているように感じる、としたら誉めすぎか。蛇足ではあるが、同じ作者の『MSRキートン』と並び、戦後現代史の最良の教材の一つであるというのが個人的な評価だ。

やや悲しい話が続いたので、安心して読むことができる物語として、田中芳樹『アツプフェルラント物語』を最後にあげたい。東中欧の架空の小国を舞台とした物語ではあるが、実際のベル・エポック期の国際情勢を下敷きにしつつ、軽快なテンポで進む娯楽作品に仕上がっている。代表作である『銀河英雄伝説』の系譜をひく「架空歴史小説」とでもいべき作品こそ、最も持ち味が出てくるのではないかと思う。

最後に、文学に詳しい方から、なぜ、ミラン・クンデラ『存在の耐えられない軽さ』が出ていないのか、とお叱りを受けるかもしれない。実は、これだけ偉そうなことを書きつつ、未読なので紹介しかねる、という次第なのである。御寛恕を乞いたい。

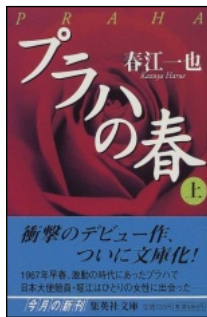
あえてコミックも薦めてみたい。最近では『二十世紀少年』で知られる浦沢直樹がかつて手がけた、『パイナップルARMY』の小学館文庫版第2巻に収録されている「泣く男」も『プラハの春』を舞台とした作品である。決して今風の絵ではないが、それがかえって物語に余韻を与えているように感じる、としたら誉めすぎか。蛇足ではあるが、同じ作者の『MSRキートン』と並び、戦後現代史の最良の教材の一つであるというのが個人的な評価だ。



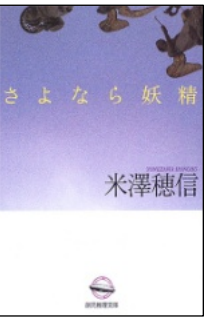
(y/たな)



購入検討中



(y/はる)



(y/よね)

田中芳樹『アツプフェルラント物語』
(光文社文庫・二〇一三年)

浦沢直樹『パイナップルARMY』2巻
(小学館文庫・一九九五年)

春江一也『プラハの春』
(集英社文庫・二〇〇〇年)

米沢徳信『さよなら妖精』
(創元推理文庫・二〇〇六年)

寒空の下の店頭選書

昨年の十二月十九日に、ジュンク堂三宮センター街にて、数名の図書委員連で店頭選書を実施し、下は中一から上は高二まで幅広い学年の人が、それぞれ違った目線で本を選びました。

何冊か紹介しますが、この他にも多くの本が図書館に仲間入りしました。ぜひ図書館に来て読んでみてはいかがでしょうか？

『ザクとうふ』の哲学

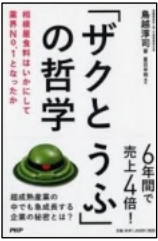
(中一・三木 康太郎)

この本は、「ザクとうふ」を創った相模屋食料の社長・鳥越淳司氏がいかにかして六年間で売上四億円を達成したか、また「商品を作る・作る」といふことのような事を、鳥越氏の経験を交えて教えてくれる本です。

売上四倍を達成した理由の一つでもある「全自動工場」の建設から、工場での生産に至るまでのエピソードが読みどころだと思います。

また、とつぷの生産に関する知識が無くても分かりやすい点、物語感覚で「商品を開発する」といふことはどういうことなのか。そういったこともよく分かるので、とても読みやすいと感じました。

著者：鳥越 淳司
(619.6/I)



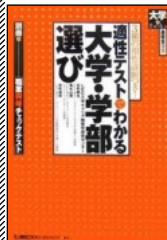
『適性テストでわかる大学・学部選び』

(高一 原 将仁)

「大学ってどんな所なんだろう」「大学どの学部に行こうかな」といった不安がある人におすすめの一冊がこれ。進路選択にあたっての心構えから、それぞれの学部に対する丁寧な解説まで幅広く取り扱っています。

この本には、気軽に試せるものからがっちりしたものまで、いくつか適性テストがあるので「自分が文系か理系かわからない」とか「まだ進路がよくわからない」という人でも気軽に手にとれると思います。

編著：東京リーガルマインド
出版：東京リーガルマインド
(S/大)



『マックスむらい、村井智建を語る。』

(高一 平田 奨)

『俺の必殺技！ギガグラビティー！』これが大人の10コンボやー！等々、これらの言葉を耳にしたことがある人はとても多いと思います。これらの言葉は、AppBank株式会社代表取締役CEOの村井智建氏ことマックスむらい氏の言葉です。

『YouTube』の動画チャンネルの登録者数113万人、「ニコニコ動画」公式チャンネルの有料会員1万2千人を突破し、関連グッズも多数展開しているマックスむらい氏。この本には、「マックスむらいが生まれるまで」が、厳密には「マックスむらいを生んだ」AppBankがはじまるまで」がまじりこめられています。

いままでほとんど語られることのなかったであろうマックスむらいの過去に迫ったこの本。ぜひ読んでみてください。

構成：文・倉西 誠一
(289/むら)



旧図書委員より

(先代委員長 高三 中村 文俊)

この一年間、委員長を務めさせていただき勉強になった事、変えていかなければならない事を改めて学ぶことができました。来年度の図書委員の方々に期待を込めて、エールを送りたいと思います。

高三 中村 文俊

今年新しいイベントを行ったりしたので、前例がない状態での計画立案や実行が多くありました。そんな中でも多くの図書委員達が頑張ってくれたので、来年以降の図書委員の活躍にも期待しています。

(副委員長 高三 山口 和晃)

役員に見合った動きが出来ていたかはわかりませんが、様々な行事に参加できたので、本当に充実した一年間でした。ありがとうございました。

(マネージャー 高三 武仲 雄輝)

最後に、今回編集を担当し、来年度の図書委員の中心を担う三名から、一言ずつコメントします。

編集後記と 来年度の役員より

中一から始めた図書委員として、様々な経験をしてきましたが、読書三昧を書き上げるのは初めてで、いい経験になりました。来年度は委員長として、新しい経験が出来たらなと思っております。

新委員長 高二 平田 奨

中一から始めた図書委員もついに三役まで登りつめました(笑)

今年一年図書委員副委員長として委員長のサポートをして参ります。よろしくお願ひします。

新副委員長 高二 轟 悠

中一からの五年間、図書委員に関わってきて初めて読書三昧の編集に携わりました。新マネージャーとして、委員会活動で先輩に多くのことを伝えていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

新マネージャー 高一 原 将仁